



つながることから

9月の小学校のあいさつ運動で校門に立っていると、何となく疲れた様子の小学生。「そっか、暑いのに毎日運動会の練習を頑張っているんだね。」「先生も日焼けで顔が赤くなってるね。」と民生委員の方たちと話していました。1月の大雪の登校時、子どもたちは元気いっぱいのあいさつ。「子どもは寒くないんだね。」「雪は嬉しいよね。昔は軒下まで積もったよ。」と話していました。同じ子どもたちなのに、こちらが感じることは毎回違います。

第三中学校区学校運営協議会では、地域の大人と子どもたちが『顔と名前が分かる関係づくり』に取り組もうと話しました。そこで先月、渡地区民生委員の方々とともに三中あいさつ運動（三中防犯の日）に参加しました。渡地区保護司の橘さんは「子どもたちを犯罪から守るために、自分たちがPTAだった時に毎月10日を『三中防犯の日』と決めたんですよ。」と話してくださいました。何をやるにも、まずは実際の子どもの様子を見て感じる事が大事なのではないかと思います。そこから「つながり」が広がっていくと思います。

これからも地域で、学校で、家庭で、子どもと大人、大人と大人がつながれることを考えていきたいと思っています。



お琴教室（外江小）：「初めてだったけど楽しかった」



バルーンアート教室（渡小）：「またチャレンジしたいな」

体験すること

3月に入って、外江小ではお琴教室（音楽）、渡小ではバルーンアート教室（クラブ活動）を地域の先生を招いて行いました。子どもたちは、様々な体験を通して興味のあること、夢中になれることに出会います。体験の場は、なにも学校だけとは限りません。お琴教室（外江）やバルーンアート教室（渡）は各公民館でも開催しています。もちろん親子参加もオッケーです。地域の先生になってくださる方も募集しています。皆さんの趣味や得意なことを生かして、子どもたちと一緒にいろいろな体験をしてみ

名前を覚えてもらう

お互いにマスクをしているので顔が分かりにくかったり、名札が見えにくいと子どもたちの名前を覚えるのも一苦労です。そこで私は、子どもたちに名前を覚えてもらうことに力をいれました。右の写真は、外江小、渡小の児童が描いてくれた私の名札です。この名札にしてから、たくさんの子どもたちが名前



文責：高梨 典子
（地域学校コーディネーター）